

令和 5 年 7 月 6 日
大洲河川国道事務所
肱川緊急治水対策河川事務所
肱川ダム統合管理事務所
愛媛県大洲土木事務所

令和5年7月の梅雨前線に伴う大雨における肱川の 出水への対応 【速報】

～肱川の氾濫による浸水被害を大幅に軽減～

肱川流域は、令和 5 年 7 月 1 日に梅雨前線の影響により、肱川橋上流域平均総雨量で 224.5 mm（時間最大雨量 23.0 mm）を記録し、大洲第二水位観測所（肱川橋地点）では避難判断水位（4.80m）を越え最高水位は 5.28m に達しました。

今回の出水では、肱川上流域の野村ダムと鹿野川ダムで洪水調節を行い流量を低減させ、ダムより下流全川に渡って水位低減を行いました。鹿野川ダムでは約 1,150 万 m³（野村ダムの貯水容量と同等）の洪水貯留を行いました。同規模の流入量となる平成 23 年 9 月洪水と比較すると、鹿野川ダム改造後の洪水調節及び河道改修進捗の効果により、阿蔵箇所（肱川 18.0k 左岸）の水位を約 1.2m 低減させたと推定されます。

この効果により、肱川の氾濫による（外水を主な原因とする）家屋浸水を回避したと推定されます。

また、肱川本川及び矢落川の 5 箇所に排水ポンプ車 7 台を配備しました。そのうち 4 箇所で排水ポンプ車を稼働、都谷川排水樋門配備では 3 台の排水ポンプ車を稼働し、合計約 123,000m³の排水を行うことで浸水被害の軽減に努めました。

なお、資料における数値は速報値であり、今後修正する可能性があります。

本施策は、四国圏広域地方計画「NO.1 南海トラフ地震を初めとする大規模自然災害等への「支国」防災力向上プロジェクト」の取り組みに該当します。

問い合わせ先

国土交通省 四国地方整備局 大洲河川国道事務所 Tel: 0893-24-5185(代)
副所長 高島 愛典 (タカシマ ヤスノリ) (内 204)
事業対策官 新川 和之 (シンカワ カズユキ) (内 208)
◎ 工務第一課長 宮田 晃 (ミヤダ ヒカル) (内 311)

国土交通省 四国地方整備局 肱川ダム統合管理事務所 Tel: 0894-72-1211(代)
副所長 南本 秀行 (ミナミモト ヒデユキ) (内 204)
◎ 管理課長 石丸 満久 (イシマル ミツヒサ) (内 331)

愛媛県 南予地方局 大洲土木事務所 Tel: 0893-24-5121
◎ 河川港湾課長 岡本 敬二 (オカモト ケイジ) (内 221)
河川港湾課係長 石丸 和志 (イシマル カズシ) (内 223)

◎ : 主な問い合わせ先

つなごう肱川

令和5年7月梅雨前線豪雨の概要 【肱川】

令和5年7月6日

大洲河川国道事務所
肱川緊急治水対策河川事務所
肱川ダム統合管理事務所
愛媛県大洲土木事務所



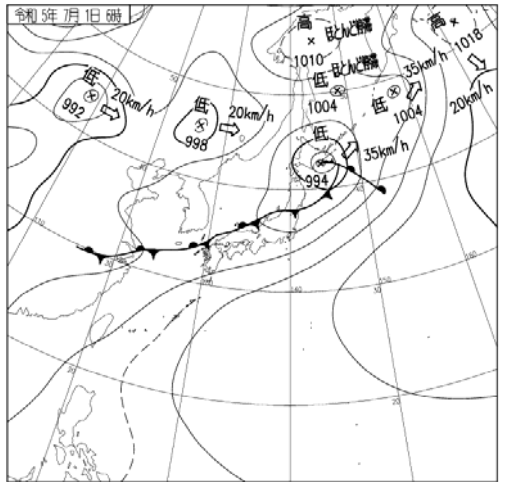
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

※本資料における数値は速報値に基づくものであるため、今後変更となる場合があります。

1. 気象の概要について

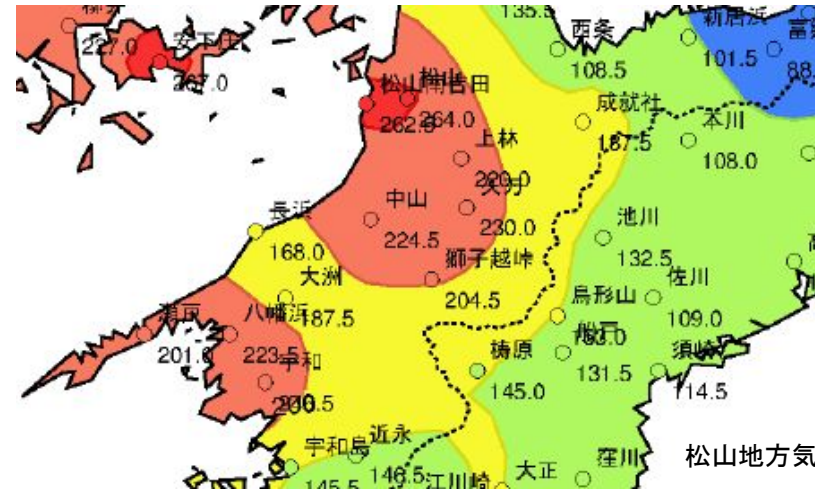
- 九州北部から東北付近にのびる前線の活動が活発となり、広範囲で大気の状態が非常に不安定となりました。
- 6月30日の夜から7月1日明け方にかけて非常に強い雨が降り続き、九州北部で線状降水帯が発生するなど西日本を中心に大雨となり、肱川流域においても、この梅雨前線の影響で大雨となりました。
- 6月30日6時から7月1日19時までの期間で、肱川橋上流域の平均雨量の総雨量は224.5mmを観測しました。

■天気図(気象庁提供)



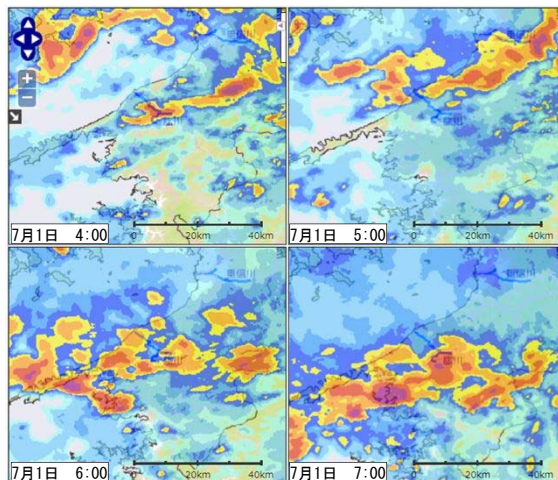
気象庁提供

■アメダス期間降水量(令和5年6月30日~7月1日)



松山地方気象台提供

■レーダ雨量実況図(国土交通省)



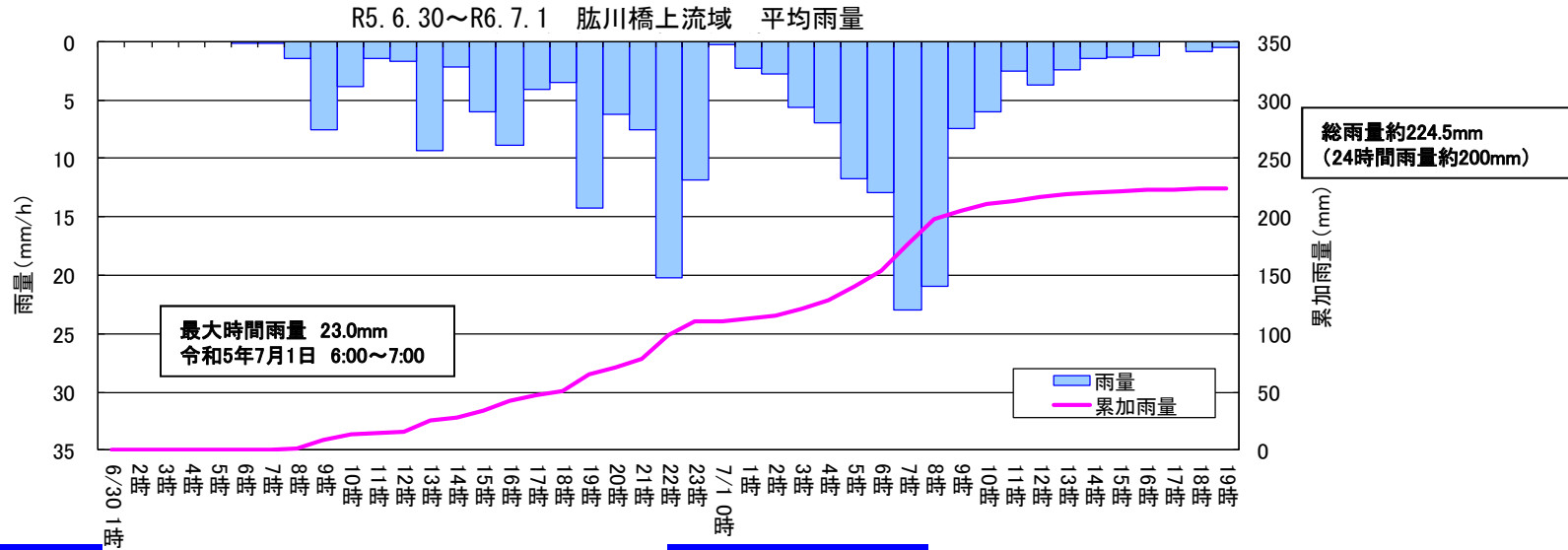
■肱川 肱川橋(大洲第二)地点 7月1日11:20 水位5.28m



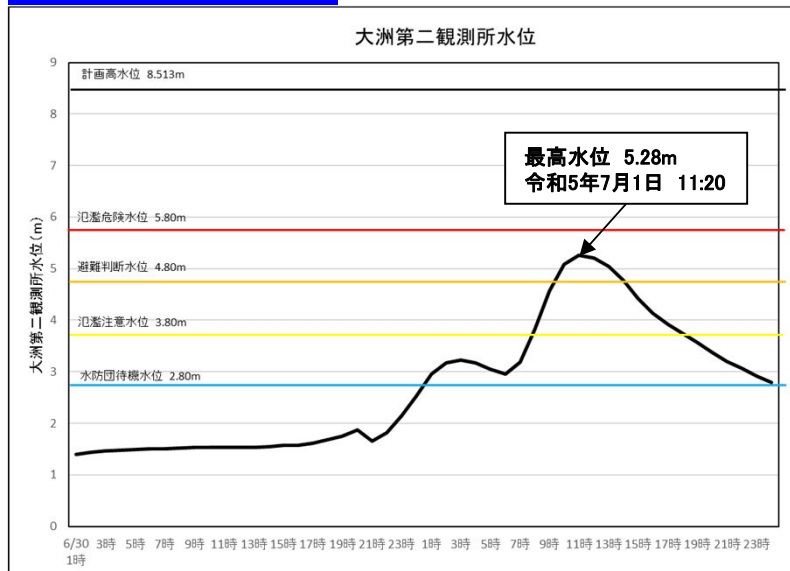
1. 気象の概要について

- 河川水位は、大洲第二水位観測所において1日11:20に5.28mを観測、避難判断水位（4.80m）を超過しました。
- 河川水位は、大川水位観測所において1日9:00に5.56mを観測、避難判断水位（4.90m）を超過しました。

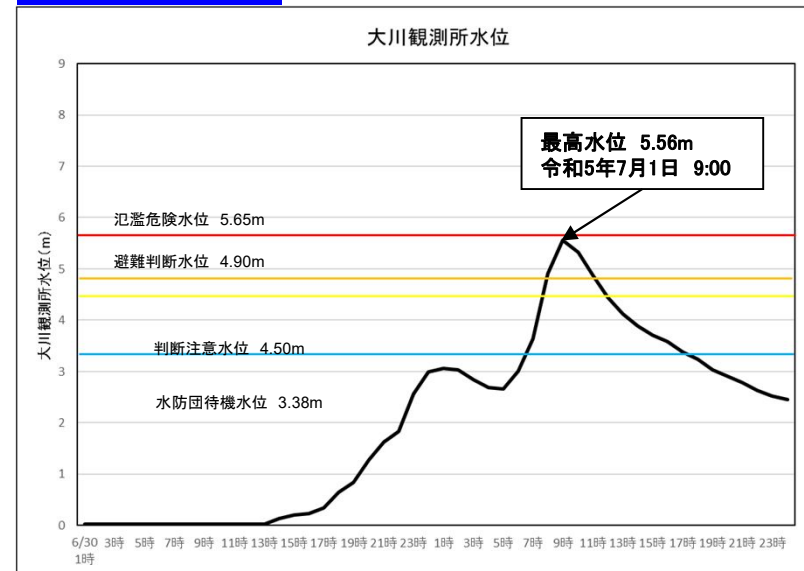
■ 累加雨量



大洲第二水位観測所



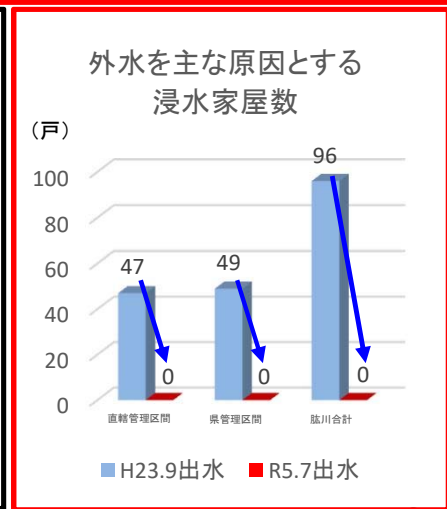
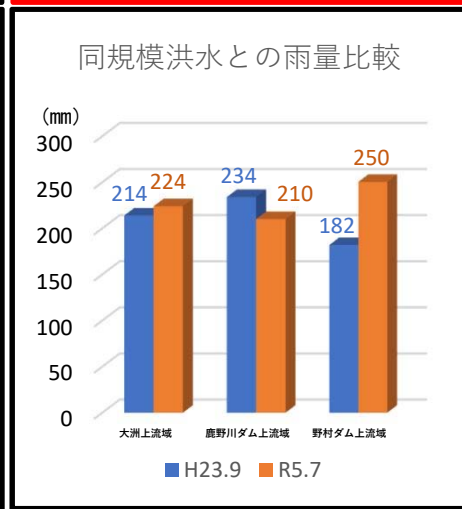
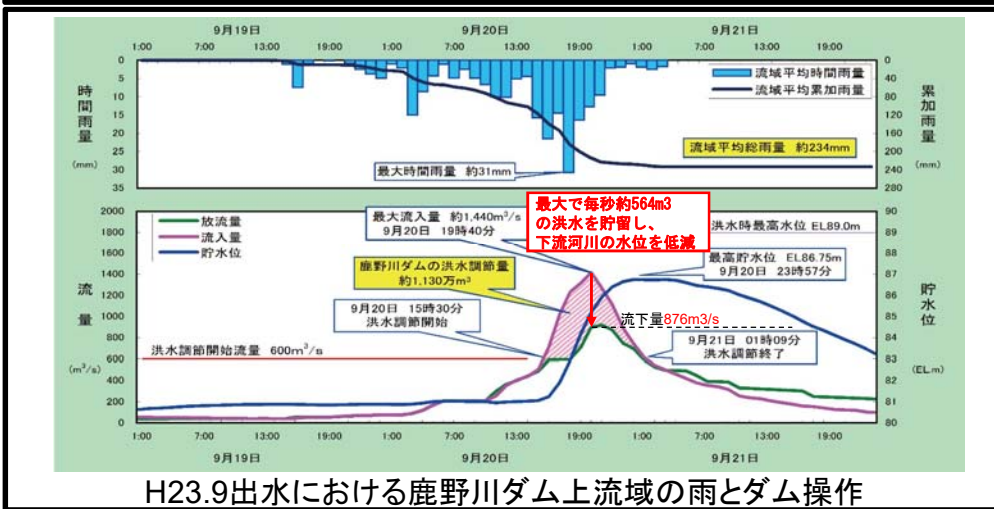
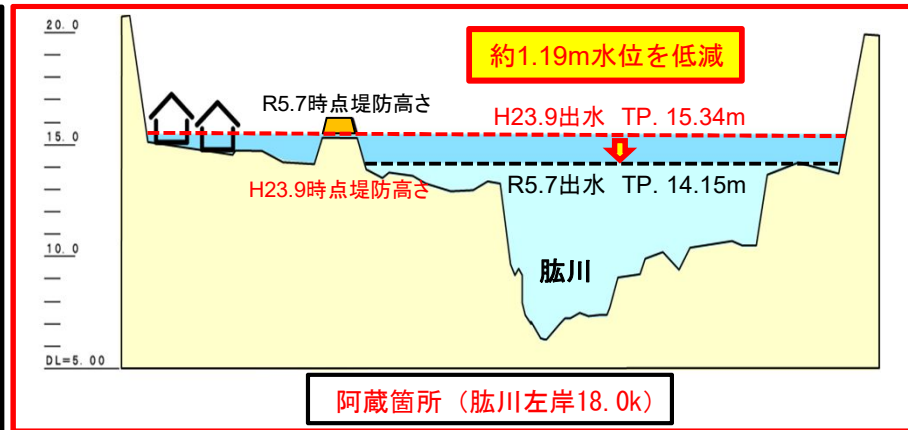
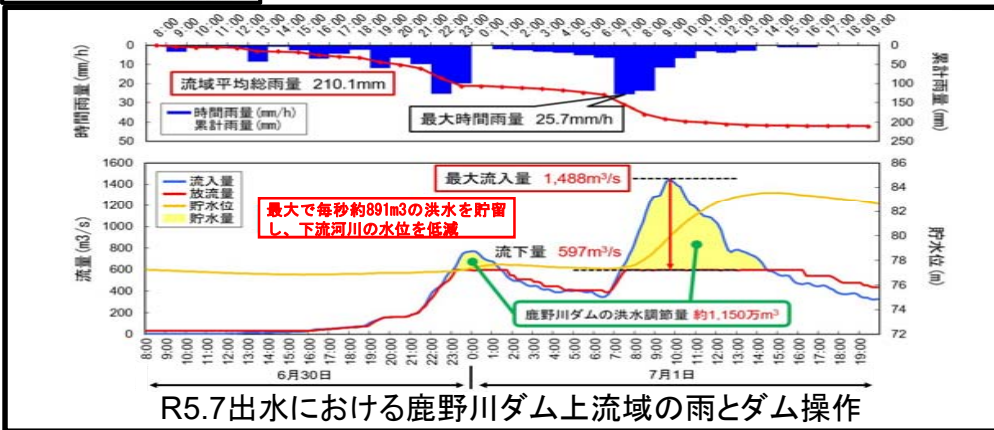
大川水位観測所



2. 野村ダムと鹿野川ダム改造及び河道改修による効果

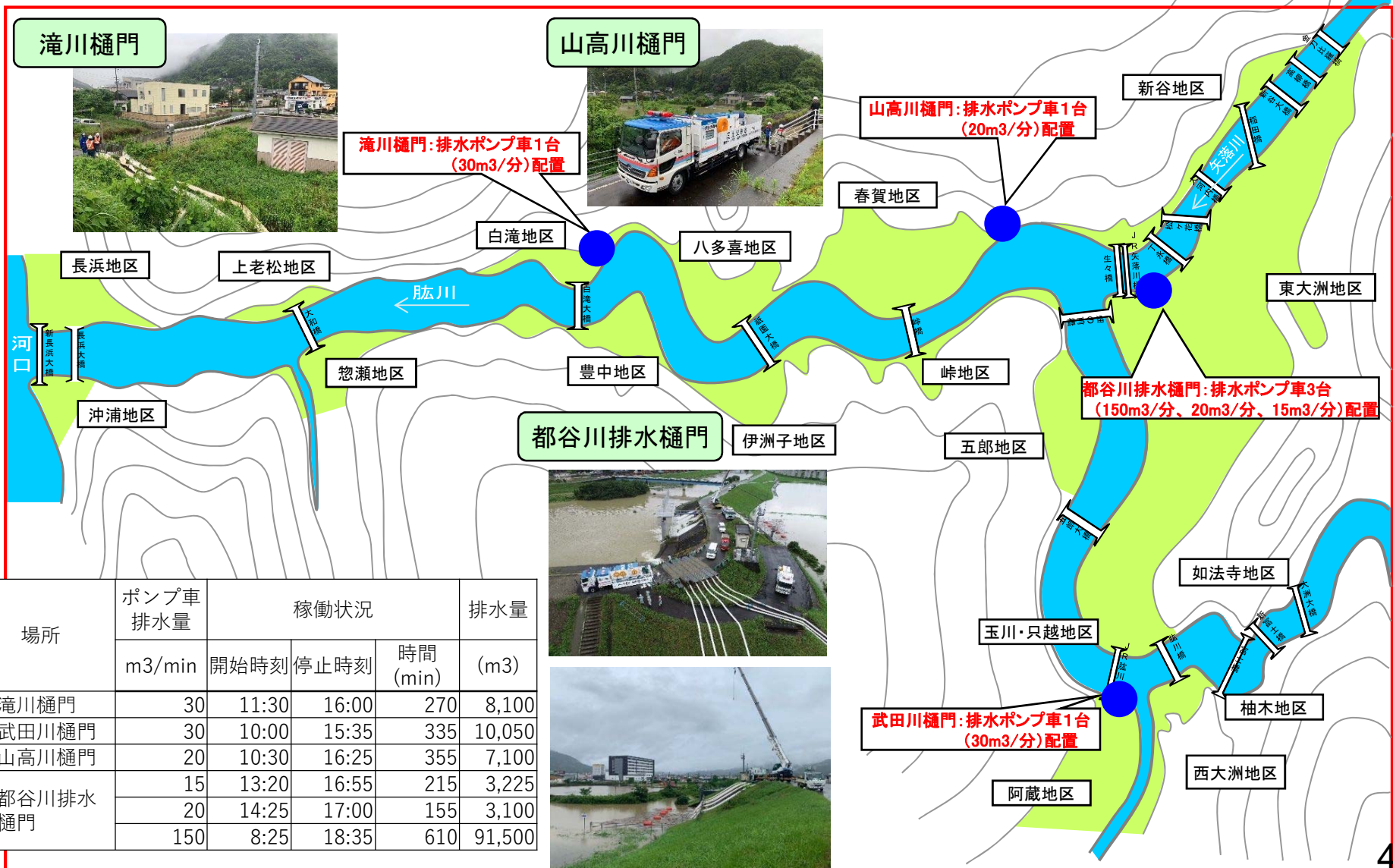


- 梅雨前線の影響により、肱川水系大洲上流域において約224mm(6月30日6時～7月1日19時)の累加雨量を観測。
- 鹿野川ダムでは令和元年6月に改造事業(洪水調節容量の増加、放流能力の増加)が完了するとともに、野村、鹿野川両ダムの操作規則を見直して運用している。
- 鹿野川ダムで最大約1,488m³/sの流入量を記録し、約1,150万m³の洪水を貯留したが、同規模の平成23年9月出水(約1,440m³/s)と比較すると、**鹿野川ダム改造後の洪水調節及び河道改修進捗の効果により、下流阿蔵箇所(肱川18.0k)の水位を約1.2m低減させ、外水を主な原因とする家屋浸水を回避したと推定。**



3. 被害軽減対策について

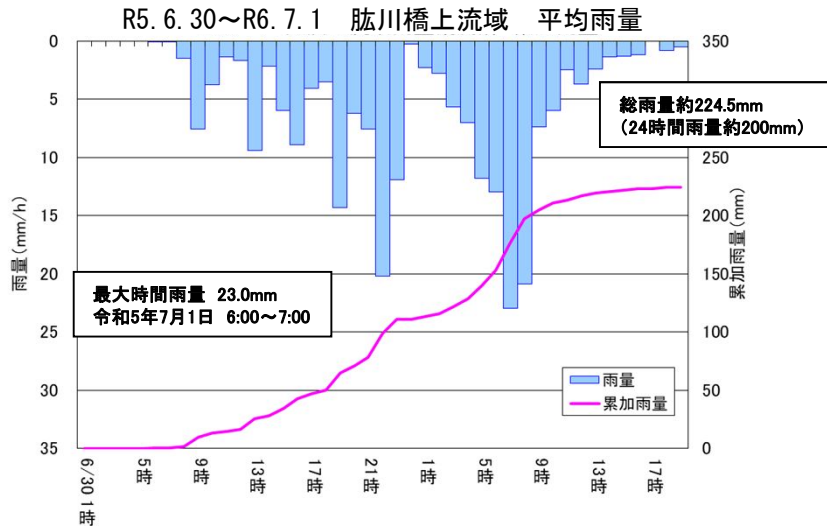
■梅雨前線に伴う大雨により肱川本川の水位が上昇し、肱川では白滝地区、山高地区、阿蔵地区、矢落川では東大洲地区、新谷地区の内水氾濫による浸水被害を軽減するため、樋門操作を適切に行いました。また、排水ポンプ車を配置し、稼働させる事により約123千m³を排水し、浸水被害の軽減に努めました。



場所	ポンプ車 排水量 m ³ /min	稼働状況			排水量 (m ³)	
		開始時刻	停止時刻	時間 (min)		
肱川	滝川樋門	30	11:30	16:00	270	8,100
	武田川樋門	30	10:00	15:35	335	10,050
	山高川樋門	20	10:30	16:25	355	7,100
矢落川	都谷川排水樋門	15	13:20	16:55	215	3,225
		20	14:25	17:00	155	3,100
		150	8:25	18:35	610	91,500

4. 過去に発生した同規模洪水の比較

今回(梅雨前線: 令和5年7月1日)



過去洪水(台風15号: 平成23年9月21日)

